

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 動物応用科学科

職階 講師

氏名 加瀬ちひろ

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

応用動物行動学を主として、動物応用科学分野での実践的ジェネラリストに必要な基礎知識と技能、思考力、分析力、表現力を講義・ゼミナール・実習に加え卒業研究を通じて学生が習得できるようプログラムを提供している。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
動物応用科学概論	動物応用科学科	必修	1	140
基礎ゼミ	動物応用科学科	必修	1	31
動物応用科学実習	動物応用科学科	必修	1	143
応用動物行動学	動物応用科学科	必修	2	171
動物福祉論	動物応用科学科	必修	2	157
専門ゼミ	動物応用科学科	必修	3	6
動物行動管理学実習	動物応用科学科	選択	3	45
動物環境行動学	動物応用科学科	選択	3	90
科学の伝達	動物応用科学科	選択	4	8
卒業論文	動物応用科学科	選択	4	8

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

人と動物の共生の実現に向けて自ら考え・動ける人材の育成。また、自己肯定感を持ち、何事にも前向きに取り組めるような環境作りをする。

自ら考え・動くことのできる人材を育成するために、理解の促進と学びの定着を図り、あらゆる学びの場面で主体性を持たせるようにする。また、様々な立場からの意見に触れることで多角的視点を持つことを習慣づけ、問題解決力を身につけられるよう考える機会と時間、試行錯誤できる環境を与える。自ら考え・動くためには、自己肯定感を持つことや何事にも前向きに取り組む姿勢も必要である。これらを養うために、特にゼミナールや研究室活動を通じて、コミュニティ内での信頼感・共感・一体感・ポジティブな情動を持てる雰囲気醸成に取り組む。また、ゼミナールや研究室活動を通じて小さな成功体験を大学時代に多く経験できるような仕組み作りをする。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

講義や実習の資料は見易さ・理解し易さを重視し、学びの定着を図るため、学生自身のこれまでの経験や興味、共感できる内容と関連させた話題提供を心がけている。また、実習に関しては事前に当日の手順を確認できるような説明動画をLMSにアップし、各自確認してから実習に参加させることで、実習の限られた時間を有効に使えるようにしている。学生からの質問にはすぐに答えるようにし、講義やゼミでは学生個人の意見もその場で聞き取るようにすることで、学びの主体性を意識づけている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

講義内容理解度の確認のため、LMSを使った小テストの実施を繰り返しできるように提示。授業中にアンケート調査・匿名による公表をすることで即時性のある相互的なやり取りを実施。他者との意見交換の機会を実習だけでなく講義中も度々提供。学生だけのグループ内でのプレゼンと相互評価の実施。

(2) ICTの教育活用

有

「スグキク」を活用して授業中にアンケート調査・匿名による公表をし、即時的な双方向性授業を実施。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

今年度は新たな試みとして、休憩時間後の頭の切り替えのために、動物に関連する「眠気覚ましクイズ」を行った。授業アンケートでも好評であり、気持ちの切り替えや授業参加のモチベーションの一つとして機能したことを確認できた。

(2) 学生の理解度の把握

B

LMSを使った確認テストを実施している。しかし、確認テストは自主学習を促すために、3回まで受験可能としており、知識の定着の評価は十分でないと感じた。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

定期試験前には、試験対策用の確認テストのまとめをLMSで提供し、何度も自分でテストを受けられるようにしているが、利用している学生は一部であり、全く利用が見られない学生もいる。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

授業中と授業の最後にアンケートを行っている。授業中のアンケートの回答については即時的にコメント・返答し、授業後のアンケートについては次回授業の冒頭で回答している。完全オンラインで実施している講義では、参加者へのアンケートだけでなく、何名かを名指しして意見を聞く、ということも頻繁に行なっている。

(5) 双方向授業への工夫

A

「スグキク」を活用して授業中にアンケート調査・匿名による公表を行うことで双方向授業に取り組んでいる。また、完全オンラインで実施している授業では、複数の参加者に意見を聞く機会を多数設けている。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

昼休み後の講義は、どうしても満腹感から眠くなるとの意見があったため、2024年度からは休憩時間後に「眠気覚ましクイズ」を取り入れた。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

2024年度の授業アンケートの結果、「眠気覚ましクイズ」は好評であり、学生の気持ちの切り替えや授業参加のモチベーションの一つとして機能したことを確認できた。

(3) (2) を踏まえた次年度の取組

引き続きこの取り組みを実施する。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

定期試験前の振り返りや、自主学習可能なLMSを利用したテストの公開を行なっているが、一方で知識の定着の確認が不十分であり、定期試験で低得点の学生割合が昨年度と比較して増加した科目があった。そのため、次年度は定期試験前に知識定着度確認テストを行うことで、知識の定着度を確認すると共に、得点の低かった学生のフォローアップを図りたい。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

知識定着度確認テストの実施に関しては、第三者からも良い工夫になるのではないかと評価をいただいた。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

ティーチング・ポートフォリオのブラッシュアップ研修に参加し、改めて自分の教育理念や教育における工夫について見直しができた。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

動物福祉論以外の講義でも、SugukikuやLive!アンケートなどの即時性の高いアンケート調査・フィードバック機能を用いることで学生の主体的参加を促進する。実習の課題レポートについて、こちらの意図に沿った内容を書ける学生を全体の90%以上に高めることを目指す。専門ゼミについては、卒業研究にスムーズに接続させるためのプログラムを再考する。卒業研究については、更に学生に考える機会を与えるための仕組み作りを実践する。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

- ・ シラバス
- ・ 配布資料
- ・ 小テスト
- ・ 授業動画
- ・ 授業評価データ
- ・ 卒業論文